



カケハシ・プロジェクト 対面学生会議（Study Program） フォローアップ事業の記録

1. プログラム概要

【目的】本プログラムは、日本に滞在するカケハシ・プロジェクト過去参加者（米国・カナダ・日本）が、2 日間にわたり、テーマ『日本が「働きたい国・住みたい国」となるため解決すべき課題』に即した視察や講義、ワークショップを通じ議論し合うことで、参加者同士のネットワークを強化し、相互理解を深めるとともに、カケハシ同窓生としての意識を向上させることを主目的として実施しました。

【参加者】日本在住の 2015 年～2022 年度カケハシ・プロジェクト参加者 計 18 名
内訳：米国 9 名、カナダ 1 名、日本 8 名の大学生・大学院生・社会人

【訪問地】東京都、神奈川県

【日程】

2 月 3 日（土曜日）【オリエンテーション】【アイスブレイク】

【企業訪問】一般財団法人日本国際協力センター（JICE）多文化共生事業部

【交流会】JICE 外国籍スタッフとの昼食会

【意見交換】ダイバーシティ企業に勤務する対日理解促進交流プログラム同窓生との交流

【視察】アメヤ横丁

【夕食交流会】プログラムの振り返り

2 月 4 日（日曜日）【視察】みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ（横浜市南区）

【ワークショップ】株式会社 An-Nahal（ダイバーシティ＆インクルージョン推進事業）

論点「国や自治体、地域コミュニティに提案できること、自らが実践できること」

【成果報告会】【懇親会】

2. 記録写真

	
2月3日【オリエンテーション】【アイスブレイク】	2月3日【企業訪問】一般財団法人日本国際協力センター（JICE）多文化共生事業部
	
2月3日【交流会】JICE 外国籍スタッフとの昼食会	2月3日【意見交換】ダイバーシティ企業に対し理解促進交流プログラム同窓生との交流
	
2月3日【視察】アメヤ横丁	2月3日【夕食交流会】プログラムの振り返り
	
2月4日【視察】みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ	2月4日【ワークショップ】株式会社 An-Nahal

	
2月4日【成果報告会】	2月4日【懇親会】

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 米国 大学院生

わずか二日間のプログラムでしたが、とても楽しかったです。昨日は JICE が提供している多文化共生事業のサービスについて伺いました。日本で働く外国人だけを対象にしているのではなく、受け入れる日本企業向けにもサービスを提供していると聞いて驚きました。このようなサービスをより普及させ、外国人もより容易に情報を手に入れることができるようになれば良いと思います。話す言葉や文化が違っていても自然と一緒に働くこともできると、アメヤ横丁を訪れて気付くことができました。今日は横浜市南区にある多文化共生ラウンジを訪れました。地域住民を結びつけ、外国人がより快適な生活を送れるような支援活動を行っています。多様な社会でお互いを理解し、調和を目指すためにはコミュニケーションが不可欠であると、このプログラムを通して改めて気付くことができました。

◆ 日本 大学生

様々なバックグラウンドや生き方をしてきた人たちと出会える、素晴らしい機会でした。日本で実際に暮らしたり働いたりしてきた人たちの経験が聞ける貴重な経験でした。このプログラムを通して、文化の違いについて自分でも気が付かない盲点があるかもしれないという事を知りました。日本で生まれ育った人は多くの事を当たり前のように思うかもしれませんが、文化の違いに気が付いていなければ、日本の文化や暗黙なルールを知らない人達を無意識に遠ざけてしまうかもしれません。

◆ カナダ 大学生

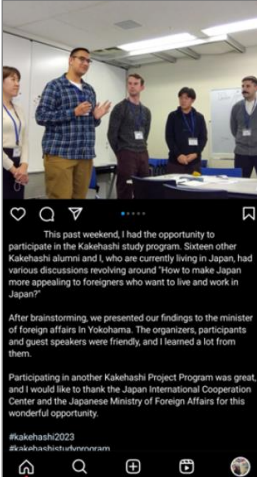
同じような考えを持つ多くの人たちと出会うことができたのは素晴らしい経験でした。機会があれば、またこのようなイベントに是非参加したいと思います。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 協力団体

同窓生向けのプログラムということで、久しぶりにカケハシ・プロジェクト参加者の方々が集い「文化多様性」「国際的な活動」の魅力を再確認する様な姿が見えたことが非常に素敵だと感じました。また、過去の参加者であるにも関わらずこれだけの人数が集まることそのものに、コミュニティの繋がりの強さを感じました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

 1年越しに国内で外務省推進プロジェクト、KAKEHASHI Projectに参加しました！ 1年前にKAKEHASHIでカナダに行ったのがとても懐かしいです！すごく色々な方がいて、刺激的な一日目になりました！大学生としてまだまだ自分の伸びしろを感じています。	 This past weekend, I had the opportunity to participate in the Kakehashi study program. Sixteen other Kakehashi alumni and I, who are currently living in Japan, had various discussions revolving around "How to make Japan more appealing to foreigners who want to live and work in Japan?" After brainstorming, we presented our findings to the minister of foreign affairs in Yokohama. The organizers, participants and guest speakers were friendly, and I learned a lot from them. Participating in another Kakehashi Project Program was great, and I would like to thank the Japan International Cooperation Center and the Japanese Ministry of Foreign Affairs for this wonderful opportunity. #kakehashi2023 @kakehashiproject
2024 年 2 月 3 日（Instagram） 1 年越しに国内で日本政府が推進するカケハシ・プロジェクトに参加しました！ 1 年前にカケハシでカナダに行ったことがとてもとても懐かしいです！すごく色々な方がいて、刺激的な一日目になりました！大学生としてまだまだ自分の伸びしろを感じています。	2024 年 2 月 5 日（Instagram） 先週末、カケハシ学生会議プログラムに参加する機会がありました。現在日本に住む、私を含めて 18 名のカケハシ同窓生が集い、「日本が働きたい国・住みたい国となるため解決すべき課題」というテーマで多くの議論をしました。 参加者同士で考えを持ち寄り、横浜で外務省の方も参加する報告会を行いました。参加者や講師、主催者のみなさん全員フレンドリーで、多くの事を学ばせてくれました。 またカケハシ・プロジェクトに参加できて良かったです。この機会をくださった JICE と外務省に感謝いたします。

7. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、神奈川県 全 4 グループが発表

	
【訪日中の学び】 ・日本には多くの風習やしきたりがあります。 ・アメヤ横丁は既に「多様性」の仕組みが出来上がっていました。	【訪日中の学び】 ・日本在住外国人向けのサービスの種類が想像していたより遥かに多かったです。 ・コミュニケーション方法を変える・検討する

【提言】 ・ VR を利用した文化交流や言語教室が学校や企業、自治体で取り入れるようになれば、よりスムーズに外国人就労者等も日本に溶け込む事ができ、受け入れ側も色々と気付く場になると思います。 ・ 会社等をより自由な場にし、現在取り入れられているリモートワークに加え、より柔軟な労働時間、世間話もできる場の提供、社内の軽いイベント（コスプレデー等）などを取り入れることを提案します。そうすることで、各個人も自分の個性と意見をより積極的に表現することができるようになります。 【アクション・プラン】 各自自分の学校や会社に所属する外国人やその親族に今回のプログラムについて SNS 等で共有し、みなみ市民活動・多文化共生ラウンジのような施設があることも伝えます。居住する地域の国際交流ラウンジ等が提供しているサービスについてもプログラム後に調べます。また、個人では、留学を検討している人向けのコミュニティチャットを立ち上げる、医療従事者向けの英語勉強会を設けるなどを実施する予定です。	だけで日本人と外国人はよりスムーズに共存できます。(やさしい日本語、ボディランゲージ等) 【提言】 ・ 外国人が来日時に受けられるサービス等の情報が、1 か所で得られる体制が望ましいと思います。 ・ 区役所といった、必ず一度は訪れる場所で外国人が得られるサービスを、「聞かれれば教える」体制から、「最初から提供する」体制へ変更できるとよいと思います。 ・ 多様性に関するイベントや、外国人補助のボランティア活動に何かしらのインセンティブを付けることができれば、より良い共生社会ができると思います。 【アクション・プラン】 ・ やさしい日本語をより多くの人に広め、今後お互いの職場や学校で実践的に使えるコミュニケーション方法を模索していきます。 ・ 国際交流ラウンジや JICE のような機関・団体について、それぞれのネットワークに情報として共有していきます。 ・ 自分の職場で「やさしい日本語」の導入を促します。 ・ 友達や同僚、留学生と積極的にコミュニケーションをとり、お互いについてより理解できるようにしていきます。
---	--

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）